

胆道の病気 ー胆石症を中心にー

春日井市民病院消化器科 高田博樹

“胆石” 名前くらいは多くの方が御存知であると思います。体の中にできる石であることは容易に想像が付きませんが、患者さんの中にはおしっこの通り道の石（尿路結石）と混同しておられる方も時々みえるようです。お腹の右上には肝臓という臓器があり、そこで作られる消化液であり老廃液である胆汁は胆道（胆管あるいは胆嚢）を通過して十二指腸に分泌され、胃から来た食べ物と混じり合います。この重要なパイプラインである胆道内に胆汁の成分が固まってできたものが胆石です。健康である限り胆道における胆汁の流れは一生、休みなく続くわけでありますが様々な病気によってその流れが障害されることがあります。胆石はその代表疾患なのです。

20年ほど前の厚生労働省の調査では、日本人成人のおよそ数～10%が胆石を保有しているとされ、極々ありふれた病気と言えます。更に糖質や動物性脂肪の摂り過ぎなどの食生活の変化、メタボリック症候群の増加などから現在も増加し続けているものと推定されています。一口に胆石と言ってもその組成や形成される場所は様々です。特に胆石の存在場所はそのまま治療法の違いにかかわってくるので大変重要です（図）。現在の胆石の診断・治療は概ね学会から出されたガイドラインと呼ばれる治療指針に沿って行われるため、患者さんが日本全国どの施設を受診しても均一な水準の医療が受けられるようになりました。胆石の大まかな基本方針ですが、胆石が有るからといって全て治療の対象になるわけではありません。大多数の症状のない胆石（無症候性胆石）は経過観察をし、発作や炎症などを生じた一部の胆石（有症状胆石）を治療することになります。胆石の代表的な症状は腹痛、発熱、黄疸です。症状があつて病院を受診される方は胆道に炎症を併発していることが多く、そのような場合は抗生剤あるいはドレナージ（胆道に溜まった汚い胆汁を抜き取る処置）によって炎症を鎮めることが優先されます。その後胆石を取り除くことなのですが、結石の存在する場所によってその方法は大きく異なります。おおざっぱに言えば胆嚢の石は手術（腹腔鏡下胆嚢摘出術）で、胆管の石は内視鏡で取り除くのが一般的なようです。もっとも、胆石の大きさ、場所、患者さんのお腹の状況によって治療法は変わってきますので主治医とよく相談の上、一つの治療法にこだわらず様々な方法を駆使して集学的に治療を行うことが重要と言えます。

当院では市民の皆様の期待に答えられるよう最新の技術で安全確実な胆石の治療を心がけていますのでお気軽にご相談ください。

胆石の存在部位による分類

